NIE実践報告

1．タイトル：日常実践から新聞を活用して

2．学校名

札幌市立平岡公園小学校

3．実践者名（代表者名）

竹村　正

4．学年

第5学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

国語・社会・理科・総合的な学習の時間　５年生９４名

6．単元（本時の学習課題）名

国語「新聞を読もう」 社会「食料生産を支える人々」 理科「台風接近」 総合「わたしたちのくらしと雪」

7．目標(狙い)

日常の学習の中で、新聞記事が表すものを適切に読み取り、自分なりの考えをもつことができる。
目的に合った記事を、自分で選択して学習に活用することができる。

8．評価の視点

自分なりの考えを明確に表現することができたか。
目的に合わせて、意欲的に新聞記事を調べて活用することができたか。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

国語「新聞を読もう」２／２時間　社会「これからの食料生産」２／３時間
理科「台風接近」２／３時間　総合「わたしたちのくらしと雪」３／２０時間

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

国語「新聞を読もう」（２時間扱い）

①新聞をグループに一つずつ配り、新聞を様々な角度から見てみる活動を通して、写真や見出し、マンガやカラーページなどがあり、新聞の特徴について理解する。また、新聞は「見出し」「リード文」「本文」「写真や注」などによって構成されていることを理解する。（1時間）
②同じ出来事を伝える二つの記事を比べることで、書き方によって読み手の捉え方が大きく違ってくることを理解する。また、リード文と一枚の写真を提示し、自分で見出しを考える活動を通して、立場や見方の違いによって見出しも大きく変わり、受ける印象も大きく変わってくることを理解する。（１時間）
（留意点）
・見出しを子どもたちが考える時、どんな立場でどのような視点から見出しを考えたのか明らかにしながら学習を進めていく。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

自分たちで見出しを考え、考えた見出しを交流することで、様々な立場や見方の違いがあることに気付くと同時に、自分たちもいろんな見方で情報を見ていくことが大切であることも考えることができた。

12．成果と課題

日常から新聞記事を活用することで、子どもたちが事象を自分ごととして捉えて学習を進めていくことができた。また、新聞を提示資料として扱うことが多かったが、子どもたち自身が新聞を活用して調べる活動を取り入れることは、より大きな効果があることもわかった。今後も、新聞の効果的な活用を考え、日常の学習の中で新聞を取り入れていくことができるようにしていきたいと考えている。